

コロナからの回復を目指し、反転攻勢を仕掛け、地域に賑わいを取り戻していくために、国も観光需要を喚起し、国内外の旺盛な需要を取り込んでいこうとしています。足利市でも同様に観光需要を喚起し、これまで以上に積極的に外から人を呼び込むために、知恵と工夫と努力により足利市の強みを伸ばしながら新たな仕掛けも打っていかねばならないと考えています。

先日参加した都市問題に関するセミナーで、「市民にとって誇れる日常風景や心のよりどころとなるものが、より象徴的な風景となるように、魅力を向上させ、価値を磨き上げていく。それが、そこでしか見ることができない風景になり、訪れる人たち(=観光客)にとって思い出の風景になる。いわば風景体験である。」と聞きました。

本市でも、市民の誇りである素晴らしい地域資源を磨き上げ、発信し、賑わいづくりにつなげていきたいと思っています。その施策の1つとして、昨年度から力を入れている「夜景観光」があります。全国的に見ても、例えば神奈川県藤沢市では、江の島の観光客数はライトアップにより冬の時期が夏の時期を上回ったとのことでした。

今年もあしかがフラワーパークさんのご協力をいただいて先月開催した「灯り物語」では、足利学校等を「花手水」で彩り、昨年を上回る〇〇人のご来場を

いただきました。前述のセミナーでは、「昼間の光は太陽が決めるが、夜どこに光を当てるかは人が（地域が）決めることができる」という言葉もありました。まさにその通りだと、とても印象に残っています。

足利市は、この夜景観光をさらに磨いていくことによって、全国からの注目を集め、他のモデルや参考となれる可能性を有していると思います。新しい人の流れ、そして溜まりを作って、それらを連携させていく仕掛けを作る、更には夜景に関するコンベンションを誘致し足利市を全国に発信することも含め、本市に外需を取り込めるよう積極的に取り組んでいきたいと思っています。